

第2回懇談会で出された意見とその対応

箇所	委員から出された意見	計画への反映状況や対応方向
基本理念	<p>基本理念について、前回、生まれてからは遅いので母体からはじめべきとの意見を言ったが、そのようにできないか。食育のスタートはあくまでも母のお腹で、まず母の体をきちんとするということにした方がよい。【岸部委員】</p> <p>産科の先生の話では、未熟児や奇形児が多く、また、やせすぎだと子宮が発達せず妊娠できないとのことだった。【今里座長】</p> <p>誤解を与えるのは、「ゆりかごから」「から」がそこからスタートするというイメージを持つからではないか。【大谷委員】</p> <p>歯科保健の分野では、スタートは母子保健であるので、母から始まるのは自然に思われる。【芦田委員】</p> <p>不妊の原因が男性にある場合もあるので、母のみを強調するのは、問題ではないか。【大谷委員】</p> <p>食育の目標が健康で安心・安全な食生活となっているが、そこでとどまるのではなく、医療費の削減とか有病率の低下にできないのか。【岸部委員】</p> <p>問題は書かれているが、目的が抜けているので、どうしたいのかが読み取りにくい。食育はあくまでも手段であり、それでどんな社会を作っていきたいのか。【服部委員】</p> <p>医療も食育も目指すのは「健康長寿」ではないか。【芦田委員】</p> <p>健康で安心・安全な食生活をめざすのは当たり前であり、みんなが元気でいきいきできる京都府とか、農林水産部で担当するなら農林水産業の活性化とかでもよいのではないか。【大谷委員】</p>	<p>○「誕生前から始める京都の生涯食育」をメインテーマに、「誕生前の段階においても親になる者が健全な食生活を実践することが重要です。そこで、京都府では、誕生前から食育をスタートさせます。」を記述</p> <p>○食育により健全で豊かな食生活を通して、「いきいき元氣・健康長寿の京都」を目指すこととし、基本理念の冒頭に記述</p>

第2回懇談会で出された意見とその対応

箇所	委員から出された意見	計画への反映状況や対応方向
1 現状と課題	食に関する問題点の中に、心を病む人が増えていることについての言及がないが、心の問題に触れてもよいのではないか。5歳児健診で育児の悩みを聞くと、1位は叱り方がわからない、2位は言葉の遅れであり、いずれも「かわり」の問題である。【大谷委員】	○2(2)家庭の食と健康・健康の項目に、「食生活の乱れは、心身の健康に大きな影響を及ぼすことから」を追記
4 施策の展開 世代(全般)	どのようにして生産されて、食卓にののかを五感でわかるといふのは大事なことなので、最初の食育は体験から入るといふのはよいことだと思う。【戸田委員】	体験を重視して施策を進めていきます。
4 施策の展開 世代(子ども)	家で女の子に炊事をさせようとする、学校では男女平等と習うのに、なぜやらないといかないのか、と言われるが、男女で体の違いがあるのも事実である。【湯川委員】 料理がどのように作られるかを知らない、食の安全のこともわからないので、調理実習はともも大事である。ただ、中学・高校になると勉強中心になってしまいうので、せめて京都の小学生には最低限の料理能力を身に付けてほしい。【大谷委員】	児童生徒が食に関する理解を深め、男女ともに日常の生活で実践していくことができるようになるために、地域の特色を生かした給食・調理実習を今後とも進めていきます。
	男女とも中学校まで家庭科を学ぶ。小学校6年生では弁当を自分で作ったりもするが、虐待対策の意味でも自分で作れることは大事である。出前授業でたばこやクソスリの影響についての勉強もするが、肝心なのは、小・高と連携して、繰り返しやって、身に付けることである。【山内委員】	他校種と連携を図り一貫した食育を進めていきます。
	地元の小学校でのモデル事業であるが、歯科の観点からの食育として、食べるときにしっかり噛まざるをえない乾物を使った授業を行っている。講演会や製造工程の見学の後、調理実習を行い、家庭で親子一緒に料理をしてもらうというものが、いろいろな場面で何度も発信していく必要がある。【芦田委員】	学校、職場、家庭、地域など様々な場で取組を推進していきます。
	教職員の資質向上とあるが、栄養教諭と各教科の先生との連携も大切である。一般的に、保育所よりも幼稚園、指定校よりも指定校以外において意識が低い傾向にあり、学校による温度差もある。【大谷委員】	児童生徒の発達の段階を考慮して、各教職員が相互に連携・協力を図りながら学校の教育活動全体を通じて適切に食育が推進されるよう、教職員研修等の機会を活用していきます。

第2回懇談会で出された意見とその対応

箇所	委員から出された意見	計画への反映状況や対応方向
<p>4 施策の展開 世代(子ども)</p>	<p>原因と結果がわかりやすく具体的に書かれたようなパンフレットがあるとよい。学校給食の残食は、担任の先生によって大きくなりという。学校全体の問題として、先生そのものも意識して考えてもらわないといけない。【岸部委員】</p> <p>学校の先生の負担はただでさえ大きく、困難な状況の中で決められたカリキュラムの内容を教えるだけで精一杯であり、その上に食育という負担を加えたら、先生達はうつ病になりかねない。見かねて4、5月に手伝いにこころかとう行政に相談に行った時に、全国で1箇所そのようなことをしている自治体があると聞いた。【山口委員】</p> <p>保育所にもいろいろある。母子家庭や貧困が増えており、子どもはペットという意識の親もいる。そういったことも含めると問題が大きだし、そこに第三者がどうかかわられるのかも難しい問題である。【大谷委員】</p> <p>幼稚園児とその親で料理教室をしたところ、3人が手を切ったので、痛みがわかってよかったね、と声をかけた。このような場に来る人は、意識が高いので文句を言わないが、保育所にはいるんなら親がいる。【大谷委員】</p>	<p>食育の取組の成果の一つに学校給食の残食率の改善があげられます。学校給食の「食事でいきいき健康ガイドブック」(京都府HPに掲載)も活用しながら、引き続き、学校全体で食育を進めていきます。</p> <p>地域の生産者、食に関する知識や経験を有する人材、社会教育関係機関や団体その他の関係機関・団体等の協力を得ながら、学校の実状や児童生徒の実態に応じて食育を進めていきます。</p>
<p>4 施策の展開 世代(若者)</p>	<p>骨量が増えるときにダイエットをすると、子宮が十分に発達しなかつたり、骨粗鬆症になるおそれがあるので、妊娠期や妊娠する前から考えてもらいたい。【大谷委員】</p>	<p>家庭環境や個人の意識は多様であることから、施策は対象者を明確にし、効果的な取組が実施できるよう留意していきたい</p> <p>母親になる前の若者への具体的な取組はもとより、その親の世代を含め特に意識して進めていきたい</p>
<p>4 施策の展開 世代(高齢者)</p>	<p>高齢者への支援で、人の家の冷蔵庫にある物を見て、その場で考えて、その人が食べられるものを調理する、ということはたいへん難しいことであるが、食事はGOL(クオリティ・オブ・ライフ、生活の質)に直結するので、ヘルパーの調理能力の向上はとても大切である。【大谷委員】</p>	<p>生活支援ボランティア等の活動支援など具体的な施策で検討していきたい</p>

第2回懇談会で出された意見とその対応

箇所	委員から出された意見	計画への反映状況や対応方向
4 施策の展開 家庭	<p>昔は家庭に教育力があり、親が調理しているのを見ることができたが、今は親も調理をしないので、干しいたけを戻すことの意味を知らない子どももいる。給食は食事全体の8.6%に過ぎず、90%以上の食事をする家庭の役割は大きい。【大谷委員】</p> <p>最近の若い人はインターネットで相談して、祖母に聞きに来てくれないケースもあるし、若いおばあさんの中には、すでに料理をしない人もいる。家庭環境もピンキリで、集中した施策が必要である。【岸部委員】</p> <p>私の体験談でもあるが、子どもの父母は忙しくて限界がある。そんな中、祖母が孫に料理を教えて簡単なものは作れるようになったので、そのようなやり方もあるのではないか。【倉委員】</p> <p>食事を介しての親子のコミュニケーションにより心が癒される面もあるので、その視点も書いてほしい。【大谷委員】</p> <p>保育所に迎えに来た親と一緒に夕食を作って、食べて、それから帰るといふふうになれば、わざわざ人を集める必要がなくてよいのではないか。【岸部委員】</p> <p>自分自身を振り返ると、冠婚葬祭のお手伝いの際に教わったからこそ、食文化の伝承ができたように思う。学校の合唱祭や食のコンクールなどで人を惹きつけたら、効果があがるのではないか。【湯川委員】</p>	<p>家庭へのアプローチは重要と考えており、学校や地域での取組を積極的に支援していきたい</p> <p>核家族化進んでいるものの、祖父母との交流の中での取組もあることから、施策展開の参考とさせていただきたい</p> <p>〇4施策の展開(2)家庭における食育の推進に「食を介したコミュニケーションを通じて、親子の絆を深めることができ」ることを記述</p> <p>効果的な施策を実施するため、その場づくりや手法を工夫していき</p>

第2回懇談会で出された意見とその対応

箇所	委員から出された意見	計画への反映状況や対応方向
<p>4 施策の展開 家庭</p>	<p>その時間帯にそのような行事を設定するのは、保育所にとつては負担となつて大変かもしれない。私たちのところでは、自家製味噌で豚汁を作つて、地域の人を呼んで一緒に食べる。いろんなことをして、それが浸透することを目指すには、繰り返しやるのが大切である。【山口委員】</p> <p>学生が学童保育の子どもたちみんなで夕食を食べるNPOを立ち上げる相談に来たことがあるが、育児放棄になつてしまうと意味がないとの意見を伝えた。「忙しい」は詭弁であり、便利になりすぎて親に甘えがあるのも事実。一方で親子間に緊張があるために、一緒に食べたくないという場合もある。【大谷委員】</p> <p>先日のテレビ番組に、今の60代、70代は、自分は得意なのに、子どもたちに伝えていないというものがあった。伝承されるべきことがきちんとできていない。【山口委員】</p> <p>お節料理などは、作ることだけではなく、食べることも自体も伝承である。親の意識が高くなり、要求レベルが高くなっているが、一方で、親がやらなければならぬこともある。【大谷委員】</p>	<p>意識や行動が簡単には変わらないことを意識し、繰り返し、ねばり強く取り組んで行くことが重要と考えております</p> <p>家庭環境や個人の意識は多様であることから、施策は対象者を明確にし、効果的な取組が実施できるよう留意していきたい</p>

第2回懇談会で出された意見とその対応

箇所	委員から出された意見	計画への反映状況や対応方向
<p>4 施策の展開全般</p>	<p>今の食育推進計画を作った時に、食育ネットワークが項目としてあり、大事な役割を果たすべく期待されていた。計画推進のためには、行政、生産者、消費者などの組織が必要と思うので、食育ネットワークの機能の充実強化が重要であることを明確にする必要がある。予算がなかったとしても、86団体が活動交流しながら工夫すれば、府民にアピールすることができるのではないかと。例えば、食の安心・安全フォーラムでは、府の予算はないが主催団体が知恵と技とお金を出してやっている。予算はあるに越したことはないが、少なくともそれなりに食育活動を推進すればよい。短期間の費用対効果を求められることもあるだろうが、食育を続けることによっても変わってきたのかを活動発表し、その意義を確認しあうこともできるのではないかと。【坂本委員】</p> <p>予算や権限がなくてもやれることを、できることを考えていかないといけない。だからこそ、食育ネットワークが主体となってやる面もある。【今里座長】</p> <p>食育という概念はいろんなことと関係する。水産分野でやっている魚食普及も食育の一つであるが、毎年小学3年生数千人の見学の受入や、高校の料理教室、男性グループの教室もある。10年前は生協と包丁教室をしていたが、今の時代にはあわない。このようにやっていることを全部集約するなど、予算がなくてもできることがあるのではないかと。【倉委員】</p>	<p>○「きょうと食育ネットワーク会員の連携による食育の推進」を施策に記述。ネットワークの力が発揮できるよう、取組提案を積極的に行うとともに、各団体が取り組んでいる活動の情報交換を行い、新たな取組につながるように連携を強めていきたい</p>
全般	別の会議で、虐待と心の問題をテーマにした食育を提案している。食は楽しいのだということを知りかけにできればよい。【山口委員】	参考にさせていただきます